



## 平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月9日

上場会社名 セントラルスポーツ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4801 URL <http://www.central.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 後藤 聖治  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 刀禰 精之 TEL 03-5543-1803  
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日 配当支払開始予定日 平成29年12月4日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	26,652	1.6	2,096	0.4	1,884	△0.1	1,251	△1.0
29年3月期第2四半期	26,238	2.0	2,087	19.1	1,885	19.5	1,264	26.5

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 1,228百万円 (5.4%) 29年3月期第2四半期 1,165百万円 (15.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	111.10	—
29年3月期第2四半期	112.20	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	40,496	20,718	51.1	1,837.64
29年3月期	41,266	19,975	48.4	1,771.63

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 20,702百万円 29年3月期 19,958百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	29.50	—	43.00	72.50
30年3月期	—	37.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	38.50	75.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,500	5.3	4,600	8.2	4,300	8.2	2,840	4.2	252.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	11,466,300株	29年3月期	11,466,300株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	200,496株	29年3月期	200,448株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	11,265,831株	29年3月期2Q	11,265,852株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

業績予想の前提条件及びその他関連する事項については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費が持ち直しつつも慎重な状況が続きましたが、雇用・所得環境は改善し、企業収益は堅調に推移しました。海外経済は各国の政治情勢が不安定であったものの金融市場は落ち着いた状況にあり、緩やかな回復基調となりました。

当フィットネス業界におきましては、2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた若手トップアスリートの活躍やスポーツ庁によるスポーツの普及・推進策、政府が進めている働き方改革の普及により、国民のスポーツ・健康に対する関心は更に高まりをみせており、余暇時間の過ごし方などライフスタイルの見直しも意識されはじめました。その影響もあり、様々な業種からの新規参入や新たなサービスの提供など競争は激しくなりましたが、新たな価値創造や消費者のニーズによるサービスの広がりが出てきました。

このような環境の中、当社グループは『0歳から一生涯の健康づくりに貢献する』という経営理念のもと、より多くの皆様にご満足いただける質の高いサービスの提供に努め、顧客満足度の向上を目指してまいりました。

店舗数の状況につきましては第1四半期と同様、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、直営150店舗、業務受託63店舗の合計213店舗となっております。

レジャー関連事業では、子供向けの夏休みサマーキャンプにおいて、参加者に様々な体験を提供するとともに、弊社所有のセントラルキャンプ村（群馬県吾妻郡嬬恋村）から保護者向けにライブ映像の配信なども実施し、天候不順にもかかわらず参加者数は過去最高を記録いたしました。昨年オープンしたセントラルスポーツアウトドアビレッジTHE101（静岡県伊豆市）では、観光者向けのカヤックやSUP（スタンドアップパドルボード）が好評でした。

所属選手の活動については、今年度よりコーチを招聘した男子体操競技部において、8月の第29回ユニバーシアードで野々村笙吾（ののむらしょうご）選手が個人種目別平行棒で優勝、個人総合で2位を獲得いたしました。競泳競技では7月にハンガリーで行われた第17回世界水泳選手権大会で、松元克央（まつもとかつひろ）選手が男子400mフリーレーンに出場し日本新記録を樹立しました。飛込競技では、9月の第93回日本選手権水泳競技大会において、金戸凜（かねとりん）選手が女子高飛込、3mシンクロ飛板飛込みで2位、金戸華（かねとはな）選手が女子シンクロ高飛込で優勝、1m飛板飛込で2位となりました。また、金戸凜選手は、スポーツ庁の有望アスリート海外強化支援「平成29年度ターゲットアスリート」に選抜され、今後の活躍が期待されています。

CSR活動としては、毎年夏季に全国の店舗近隣の小学校や団体で「着衣水泳教室」を実施しており、本年は約19,800名にご参加いただきました。海や川に囲まれている日本での不幸な水難事故予防策として着衣水泳教室を今後も継続的に実施してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は26,652百万円（前年同期比1.6%増）、経常利益は1,884百万円（前年同期比0.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,251百万円（前年同期比1.0%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ769百万円減少し、40,496百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が減少したこと等により流動資産が1,097百万円減少し、リース資産が増加し、敷金及び保証金が減少したこと等により固定資産が328百万円増加したことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,512百万円減少し、19,778百万円となりました。その主な要因は、1年内返済予定の長期借入金、未払法人税等、流動負債のその他に含まれる未払金が減少したこと等により流動負債が1,149百万円減少し、また、長期借入金が増加し、リース債務が増加したこと等により固定負債が363百万円減少したことによるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ743百万円増加し、20,718百万円となりました。この結果、自己資本比率は、51.1%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ996百万円減少し、4,769百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、1,721百万円の収入（前年同期は2,014百万円の収入）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益1,855百万円、減価償却費767百万円、法人税等の支払額768百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、513百万円の支出（前年同期は821百万円の支出）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出728百万円、敷金及び保証金の回収による収入315百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、2,202百万円の支出（前年同期は2,137百万円の支出）となりました。これは、長期借入金の返済による支出1,533百万円、配当金の支払額484百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、本資料公開時点において、平成29年5月12日の決算短信で発表しました通期連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,766	4,769
受取手形及び売掛金	971	880
商品	253	255
貯蔵品	73	80
その他	1,696	1,676
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	8,758	7,661
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	28,618	28,969
工具、器具及び備品	4,886	5,001
土地	7,158	7,198
リース資産	5,161	5,746
その他	96	96
減価償却累計額	△26,271	△26,781
有形固定資産合計	19,650	20,230
無形固定資産	364	329
投資その他の資産		
敷金及び保証金	10,977	10,743
その他	1,564	1,581
貸倒引当金	△50	△49
投資その他の資産合計	12,491	12,275
固定資産合計	32,507	32,835
資産合計	41,266	40,496

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	269	231
1年内返済予定の長期借入金	2,187	1,686
未払法人税等	1,004	773
賞与引当金	730	758
役員賞与引当金	65	35
前受金	3,632	3,593
その他	4,204	3,865
流動負債合計	12,094	10,945
固定負債		
長期借入金	3,250	2,218
リース債務	4,057	4,708
退職給付に係る負債	95	99
資産除去債務	1,250	1,269
その他	543	537
固定負債合計	9,196	8,833
負債合計	21,291	19,778
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,261	2,261
資本剰余金	2,273	2,273
利益剰余金	15,807	16,575
自己株式	△417	△417
株主資本合計	19,924	20,691
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17	20
為替換算調整勘定	16	△9
その他の包括利益累計額合計	34	10
非支配株主持分	16	16
純資産合計	19,975	20,718
負債純資産合計	41,266	40,496

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	26,238	26,652
売上原価	22,391	22,715
売上総利益	3,846	3,936
販売費及び一般管理費	1,758	1,840
営業利益	2,087	2,096
営業外収益		
補助金収入	7	24
その他	21	18
営業外収益合計	29	43
営業外費用		
支払利息	220	247
その他	11	8
営業外費用合計	231	255
経常利益	1,885	1,884
特別損失		
減損損失	16	29
特別損失合計	16	29
税金等調整前四半期純利益	1,868	1,855
法人税、住民税及び事業税	637	605
法人税等調整額	△33	△1
法人税等合計	604	603
四半期純利益	1,264	1,251
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,264	1,251

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	1,264	1,251
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	2
為替換算調整勘定	△99	△25
その他の包括利益合計	△99	△23
四半期包括利益	1,165	1,228
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,164	1,228
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,868	1,855
減価償却費	745	767
のれん償却額	38	38
賞与引当金の増減額 (△は減少)	54	27
支払利息	220	247
未払金の増減額 (△は減少)	△327	△254
前受金の増減額 (△は減少)	261	△36
その他	△120	56
小計	2,741	2,702
利息の支払額	△219	△247
法人税等の支払額	△527	△768
その他	19	33
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,014	1,721
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△793	△728
敷金及び保証金の差入による支出	△26	△81
敷金及び保証金の回収による収入	38	315
その他	△39	△17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△821	△513
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	—	1,350
短期借入金の返済による支出	—	△1,350
長期借入金の返済による支出	△1,681	△1,533
配当金の支払額	△371	△484
その他	△84	△183
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,137	△2,202
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	△2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△956	△996
現金及び現金同等物の期首残高	6,378	5,766
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,422	4,769

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。